

クローズアップ NGO・NPO

特定非営利活動法人

名古屋NGOセンター

NGOとともに“つむぐ”地域の輪

名古屋NGOセンターは、愛知・岐阜・三重に拠点を持つ48のNGOが加盟する「地域型のネットワークNGO」です。48団体の中には、国際協力、多文化共生、NGO支援などさまざまな分野の団体が集まっています。当センターはNGO単独では取り組むことが難しい活動やNGOのエンパワメントにつながる取り組みを行っています。具体的には、NGOスタッフを対象とした研修やNGOと市民の国際協力活動への関心・参加を促進する活動、NGOと自治体、企業をつなぐ活動を行う団体です。

■ 設立の経緯

1980年頃から「国際化」が叫ばれ、愛知県、名古屋市の中でも国際都市を目指す動きがありました。しかし、今ほど、世界の課題やNGOの活動情報を簡単に得ることはできず、活動する人自らが現地に出向いて、情報を得たり実情を把握したりすることが必要でした。そこで、世界や途上国の課題に取り組む人たちの情報交換の場やネットワーク構築のための集まりとして、1988年に「なごや第三世界交流センター」が設立されました。このセンターは、設立以前からあったNGO同士の助け合いの関係を発展させたもので、愛知県を中心に活動する12団体のNGOがイニシアチブをとり生まれました。当初は、「センター」という名称を掲げたものの緩やかな連合体としての性格が強く、事務所や専従スタッフを置いていませんでした。そのため、イベントの協働開催や情報の共有に重点を置きつつ活動を行っていました。

1995年5月には、「名古屋NGOセンター」と名称を変更し、事務所を構えました。当時は、週3日、2人程度のスタッフが勤務する体制でした。その後、

2002年には特定非営利活動法人を取得し、現在は、週5日、役員16人、スタッフ4人の体制で活動、また、多くのボランティアやインターン受け入れもを行い、市民とともに活動しています。

当センターを語る上で欠かせないのが、初代理事長の故ステファニ・レナト氏です。彼は、「社会的に小さく弱くされた人々」と共にいることを大切に、誰に対しても肩書き、年齢、性別、国籍、職業などにとらわれることなく、「対等」で「民主的」な関係性を築くことのできる「歩くNGO」のような人でした。そういった思いを引き継ぐ意味を込めて、当センターの理念を記した憲章は「ステファニ憲章」という愛称で呼ばれています。

■ 特徴

当センターは、組織や事業の運営に「参加型的手法」を用いていること、運営や活動を通して多くの人材を育成していることが大きな特徴です。各活動の企画・立案実行の過程や組織運営に誰もが参加でき、ボランティア・職員・理事が同じ立場で意見を出し合いながら行っています。当センターの活動の中で、ボランティアが参加していない活動は1つもありません。活動の多くは、ボランティアの発案から生まれ、ボランティアが関わり実施しています。また、事業やイベントの参加者が、その後企画側に回りボランティアスタッフになっていくことが多いのも特徴です。

さらに、「次世代のNGOを育てるコミュニティ・カレッジ（通称：Nたま研修）」、「ESD担い手育成のためのファシリテーター育成プログラム」、国際理解教育など、今後の地域やNGOを支える人材育成のためのさまざまな活動にも取り組んでいます。

これらの活動を通して育まれた人材は、東海圏の多くのNGOで活躍しています。

活動の柱

名古屋NGOセンターの活動は大きく7つの活動に分けることができます。

1. NGOと市民、NGOと他セクター、NGOとNGOをつなぐ「ネットワーキング」
2. NGOに関する相談・質問への対応を行う「コンサルティング」
3. NGOの情報発信を行う「情報収集発信」
4. 地域や世界の動きをモニターし、発掘した情報を整理分析してNGO活動に役立てる「調査研究」
5. 政治や行政の場に、弱い立場に置かれている人々の声を届ける「政策提言」
6. 地球規模の課題と私たちの暮らしとの関係を学び、行動を起こすきっかけをつくる「国際理解・開発教育」
7. 地域に眠る潜在的な力に働きかけ、NGO活動を生み出し育て「人材・活動育成」

以下では2つの具体的な活動を紹介します。

(1) 次世代のNGOを育てる コミュニティ・カレッジ (通称：Nたま研修)

将来、NGOスタッフとして活動する意志のある方を対象とし、約半年間かけて中部地域のNGOや専門家による研修を行っています。NGOスタッフに必要な視点を学ぶ講座やNGO等のインターン、フィールドワーク、NGOが主催する課題別選択講座を通して次世代のNGOスタッフを育成する研修となっています。2002年から始めた本研修ですが、1期から12期生まで計179人の修了生の内、延べ95人がNGO/NPOスタッフ（有給/無給問わず）として活躍しています。

(2) 地域国際化ステップアップセミナー

当センターは、日頃よりNGOと自治体の連携促進を図っています。その一環として、2014年9月に自治体とNGO/NPOの連携・協働を促進することを目的にセミナーを開催しました（クリア共催）。このセミナーでは、国際協力・フェアトレード、ESDなどの活動事例から自治体とNGO/NPOがお互い

を知り、協働のさらなる発展について、参加者同士で考え、話し合い、交流と連携を深めることができました。



地域国際化ステップアップセミナーの様子

自治体との協働について

当センターは、地方自治体や国際交流協会との連携も行っています。中でも、地方自治体などと協働で実施する「国際理解教育セミナー in なごや」は、2015年で14回目の開催となりました。このセミナーでは、東海圏で国際理解教育を推進する、愛知県国際交流協会、名古屋国際センター、JICA中部、NIED・国際理解教育センター、名古屋NGOセンターの5団体が実行委員会を形成し、企画運営を行っています。実行委員会では、お互いの立場やルールを何とか乗り越えようと毎回白熱した議論を繰り広げています。ほかにも外務省、JICAと協働研修の実施や、NGOスタディツアー合同説明会など、多くの事業を行政機関と協働で実施しています。

今後の抱負

今後は、さまざまなセクターとNGOの連携にさらに力を入れていきたいと考えています。現在でも連携のもとで事業を推進しているものの、東海地域の国際協力、多文化共生活動などをより一層活発にしていくために、東海3県の自治体、企業、教育機関とNGOの連携・協働強化を図ります。具体的には、協働でのイベント開催・事業運営のサポートをしたり、東海圏のNGOに関する情報提供を随時行ったりします。当センターに加盟するNGOは、普段から多くの特徴ある活動を行っています。そういった活動の中には、自治体や企業や教育機関の「困った」を解決できるヒントが必ずあります。地域や社会の課題解決でお困りの際は、当センターにご相談ください。NGOならではの柔軟な発想で、協働による課題解決のあり方をご提案します。



次世代のNGOを育てるコミュニティ・カレッジ（通称：Nたま研修）マネジメント講座の様子